

令和3年度 健康安全部 安全・防災係総括

- 目 標**
- ・児童生徒が安全で安心して過ごせる学校づくりへの取組みを計画、実施する。
 - ・校内環境の整備・改善、ヒヤリハットの共有と活用で、安全への意識を高める。
 - ・災害等を想定した避難訓練を行うとともに、日常的な備えなどの防災意識を高める。

- 活動内容**
- ・上記の目標に向けて、以下の活動を実施した。

1 学期	・火災避難訓練<全校> ・心肺蘇生法講習会<初任者・講習会未受講者対象>
2 学期	・シェイクアウト訓練
3 学期	・地震避難訓練<全校>
通年	・安全・安心点検 ・ヒヤリハット報告 ・教室用非常袋の配備 ・防犯ブザーの配付 ・個人用非常袋の周知

1. 心肺蘇生法講習会 6月15日(火) 17日(木)

《内容》

初任者および希望者7名を受講対象とし、心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の基本事項、および新型コロナウイルス感染症禍における注意事項について実技講習を行った。昨年に引き続き、新型コロナの影響に伴い、外部講師による職員全員の研修は行わず、心肺蘇生法の基本を動画で確認し、係が補足説明を行った。訓練用人形と期限切れのAEDを練習用として使い、実技も行うことができた。

《来年度に向けて》

- ① 心肺蘇生法の基本を習得する。
- ② 新型コロナウイルスの感染状況に応じた研修方法を工夫し、全員を対象とした講習会を計画する。
茨木消防署下井分署より人形及び研修用AEDを借りる予定。
- ③ 例年通り保健室と体育科にAEDの動作確認を、毎日行ってもらう。
- ④ AEDの機器とパッドの交換の予定は下記の通り。

玄関前	AED 本体	2025年9月	バッテリー	2023年1月	パッド	2023年5月
体育館	AED 本体	2026年11月	バッテリー	2024年3月	パッド	2022年1月(発注中)

2. 火災避難訓練 6月16日(水)

《内容》

通例の全校一斉の避難は行わず、昨年に引き続き学年・クラス単位で避難訓練を行った。煙の広がる様子、火災時の避難の仕方、消火器・消火栓の使い方などの動画を視聴した後、校舎内の避難経路を歩いて確認した。合わせて校内の消火器・消火栓の設置場所を確認し、チェックシートで学習内容の振り返りを行った。

《来年度に向けて》

- ・実際の災害を想定した集合避難型の訓練が望ましいが、新型コロナウイルスの感染状況に応じた訓練内容を検討する。

《検討事項》

・動画視聴を行う場合は、内容を小中高に対応できるよう幅広く設定し、児童・生徒の実態に合わせて各学年クラス等で選択できるようにする。

3. シェイクアウト訓練 9月3日実施

《内容》

大阪880万人訓練に合わせて実施する予定であったが、当日、大阪府への警報発令で中止となったため、校内のみでのシェイクアウト訓練の実施となった。(訓練用のエリアメール：緊急速報メールの配信なし)

当日は、13時30分より事務室から地震音を流し(40秒間)、“身を守る行動”の訓練に取り組んだ。

大阪880万人訓練で予定されている時間帯での実施であったため、小学部1年～4年の下校時間との重なりがあったが、参加できない児童については、学部内での朝の会などを利用して事前学習を行った。

また、防災意識を高めるため、賞味期限が迫っていた備蓄品(フリーズドライ味噌汁)の持ち帰りをこの日に合わせて実施した。

《来年度に向けて》

地震の発生については予測がつかないことを鑑み、校内での日程調整や時間変更を実施せず、来年度も大阪880万人避難訓練と同日・同時時間帯に実施する。

4. 地震避難訓練 1月17日(月)

《内容》

学年、クラスごとに、地震に関する対応についての動画を見たり、避難経路や防災グッズを実際に確認したりする。動画は2段階作成し、学年クラスに応じて視聴した。教室用非常袋の内容確認とアルミシートの使用体験を行った。

《来年度にむけて》

・感染症拡大予防の観点から、従来の避難訓練のような大集団が動くような活動については十分な検討が必要。

6. 安全・安心点検 毎月初め

《内容》

各火元責任者へ毎月初めに安全・安心点検表を配布し、点検を依頼した。記入された内容をまとめる際、今年度よりエクセル入力し、項目ごとに閲覧できるように整備した。

小中高全体で最も優先されるべき修繕の順位付けを行い、各部署に報告した。

毎月1日を「安全点検の日」とし、校内の安全点検を呼び掛けた。防犯ブザーの作動チェックも火元責任者に依頼した。なお、点検表の提出は修繕箇所がある場合のみお願いした。

《来年度に向けて》

- ① 安心安全を進めるため、今後も継続して行う。
- ② 点検表については、まとめたものを関係部署(管理職、担当首席、事務室)とPC上で共有し活用できるものに整備していく。
- ③ 今後も全校で統一した教室番号表を用いて、安全点検表の番号に反映させていく。

7. 火元責任者の設定 & 防犯ブザーの配付 4月初め

《内容》

年度当初に学部等配属表などを参照し、火元責任者の設定を行った。教科が関係する特別教室については主に教科の代表の方を入れるなど配慮した。大阪北部地震以降、教室だけでなく廊下などにも担当者を割り振り、日常の安全点検をカバーできる体制を整えた。

毎月、安全点検の日に各担当者がブザーの作動確認をした。不具合があった場合は、安全係にブザーの提出をしてもらった。

《来年度に向けて》

- ① 安全・安心点検の日に各火元責任者がブザーの作動チェックを行う。
- ② 年度末に一斉回収し、作動確認等整備を行い、新年度の教室配置に合わせて再配付する。

8. ヒヤリハット報告 随時

《内容》

指導中のヒヤリハット及び軽微なインシデントの記録を用紙に記入し（データ入力）、原因や解決策を報告し、共有しあうことで再発防止と学校生活における事故の防止に努めた。報告された事案は、各学部の連絡会で報告し、共有した。

今年度、ヒヤリハット・インシデント報告については、医ケア委員会と連携し、データ入力を呼びかけ、PC上の保存場所を整備した。

《来年度に向けて》

- ① ヒヤリハット・インシデントの報告は今後も事故防止のために継続する。報告されたものは直ぐに全体で周知し、再発防止に努める。ある程度集まったら集計し全体の傾向を把握し、必要に応じて全体へ注意喚起する方法を検討する。
- ② ヒヤリハット・インシデント報告については、データ入力を基本とする。
提出の流れ：データ入力→1部プリントアウトし係に提出

9. 防災係

《内容》

4月当初に教室用非常袋の配付、年度末集約（6月に簡易雨具を追加）。児童生徒の個人用非常袋を私費で購入し、入学後に家庭に配付した。高等部の入学者決定後、各学部の新入生の人数をまとめ、購入先（100円均一）に予約を入れる。新年度に引き取り、学部ごとのレシートを作成、学部の係に提出。

ボイラ倉庫内の整理、年2回（9月・3月）非常用電源の起動確認を行った。

学期ごとの個人用非常袋の確認、必要に応じて備蓄品の更新。

防災対策委員会と連携し、マニュアルの整備、備蓄品等の購入と配備を行った。期日の迫った備蓄食を配付（9月インスタント味噌汁）。

《来年度に向けて》

- ① 今年度の実績を踏まえ、主として災害時の備蓄品の管理および周知を行う。

10. 火を使用する場合の申請書の管理 随時

《内容》

屋外で火を使用する際、申請を消防署に提出している。焼きいも以外にも、落ち葉の処理など、高等部で長期的に毎週火を使う授業がある。それについては、手続きを簡略にするため、まとめて申請した。

《来年度に向けて》

- ① 4月に職員集会で申請書を消防署に提出することを周知徹底する。
- ② 安全防災係りが申請する場合、授業の場所・内容を授業担当者から聞き取っておくことが必要。